

1-1 DMAT の活動

国立病院機構災害医療センターが日本 DMAT 事務局として全国の災害派遣医療チームを指揮し、急性期医療をリード

国立病院機構災害医療センターにおいては、日本 DMAT 事務局として、全国から被災地に参集した約 340 の災害派遣医療チーム (DMAT) の活動全体を指揮し、数百人規模の被災医療機関の入院患者の搬送や、重傷者等のトリアージ、広域患者搬送等を実施した。

具体的には、自衛隊機等 8 機を調整し、全国から DMAT 78 チームを空路で短期間に被災地に参集させるとともに、災害調査ヘリ 4 機を稼働させて被災状況の把握に努めた。また、19 名の重症患者に対し、自衛隊機 5 機による被災地外への広域医療搬送がわが国で初めて行われた。さらに石巻市立病院の 100 名以上の患者搬送、東京電力福島第一原発の 30 km 圏内の入院患者 300 名以上の搬送等を指揮した。

国立病院機構病院からも地震発生直後より、全国の DMAT の 1 割にあたる 35 の DMAT (21 病院：約 160 名の医師・看護師等) を被災地に派遣した。主に被災当日から 3 日目までに、被災地から全国各地への航空搬送の救護基地とされた霞目自衛駐屯地 (宮城県仙台市)、いわて花巻空港 (岩手県花巻市) 等での活動や、仙台医療センター、福島県立医大などの被災地の中核病院に続々と搬送される重傷者等のトリアージ活動等を実施した。

今回の震災は、津波による広域な被害により、交通網の断裂による孤立、携帯電話等の通信機器の不通による情報不足、食料・燃料不足などの過酷な環境などの要因が重なり、特に難しい活動を強いられた。

- ①、②仙台医療センター (仙台市霞目駐屯地)
- ③北海道医療センター (いわて花巻空港)
- ④災害医療センター (ヘリポートから出動)

- ⑤姫路医療センター (岩手県釜石市)
- ⑥災害医療センター (日本 DMAT 事務局)
- ⑦呉医療センター (茨城県)



①



④



⑤



②



③



⑥



⑦

災害医療センターにある厚生労働省DMAT事務局からE-MIS（災害発生時の関係者への一斉連絡、被災地内外の医療機関の患者受入情報の集約・提供するシステム）を通じて15時10分に全国のDMAT隊員に待機要請をかけ、更に16時48分に各DMATへ次のような出動指示を出した。

本日14:46に発生した宮城県三陸沖を震源とする震度7の地震につきまして、宮城県、福島県の各県より全国のDMATに派遣要請がありました。

宮城県の参集拠点は仙台医療センター

福島県の参集拠点は福島県立医科大学となっております。

全国のDMAT隊員におかれましては派遣の可否、並びに活動状況をEMISに入力をおねがいします。

厚生労働省医政局 DMAT 事務局

この時までには、待機していた10班を含む国立病院機構の各DMAT班が参集拠点とされた仙台医療センター、福島県立医科大学に向けて出動した。

なお、17時36分に茨城県は筑波メディカルセンターが、

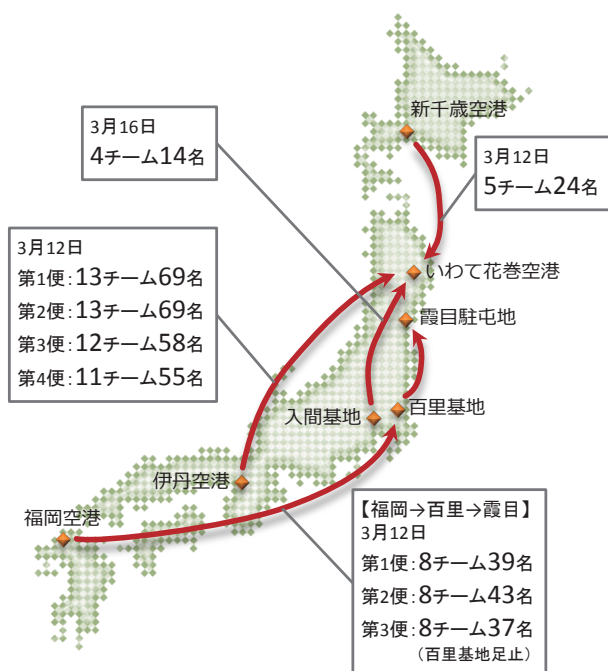
岩手県は岩手医科大学付属病院が参集拠点に追加された。また、岩手県は翌1時15分に岩手県立中部病院の1か所が更に追加となった。

津波で多くの人々が溺死した本震災では、DMAT活動で想定している48時間以内における超急性期の外傷患者は少なかったといわれている一方、これまで実施したことが無い自衛隊機による空路参集、重症患者の広域医療搬送、多数の入院患者の避難などが行われた。

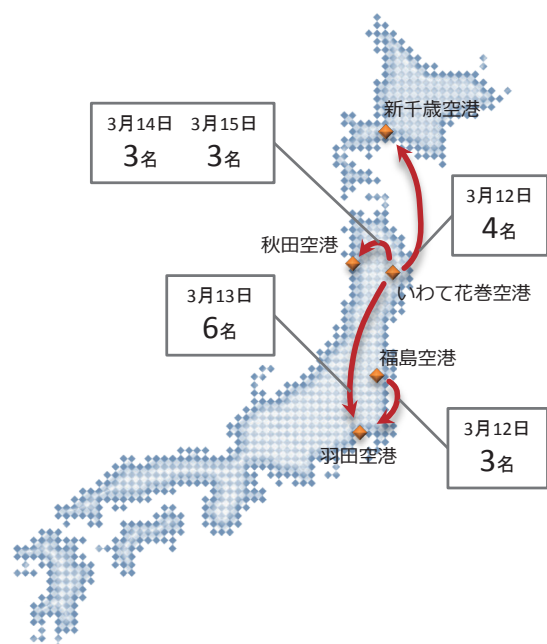
空路参集は、自衛隊C130輸送機により、千歳空港→いわて花巻空港、入間基地→いわて花巻空港、福岡空港→百里基地→霞目駐屯地、伊丹空港→いわて花巻空港へ82チーム408名が移動した。国立病院機構のDMATでは、北海道医療センター、京都医療センター、大阪医療センター、姫路医療センター、関門医療センター、九州医療センター、熊本医療センターが空路により12日に被災地入りした。

また、広域搬送は、いわて花巻空港、福島空港から19名の搬送が実施され、このうち羽田空港に搬送された1名を東京医療センターが受け入れた。

【DMATの空路参集】



【本震災での広域医療搬送】



1-1 DMATの活動

(1) 宮城県におけるDMATの活動

宮城県内におけるDMAT活動の拠点は、参集拠点とされた仙台医療センターと、仙台空港が津波で水没したために航空搬送の拠点とされた仙台市内の陸上自衛隊霞目駐屯地に設置されたSCU (Staging Care Unit: 広域搬送の拠点基地) の2か所であった。

霞目駐屯地では、被災翌日の3月12日から14日にかけて、仙台医療センターと、熊本医療センター、九州医療センター、金沢医療センターの計4班のDMATが他の団体から派遣されたDMATと共に、広域航空搬送及び県内での域内搬送、トリアージ等を実施した。仙台医療センター内では、金沢医療センターの2班が3月12日から3月13日にかけて救命救急外来にてトリアージ活動を実施した。

また、3月12日には災害医療センターの調査ヘリ班が宮城県庁2階講堂に設置された宮城県災害対策本部に入り情報収集に努めた。東京DMATとして派遣された東京医療センターの班は気仙沼市営球場にて航空搬送された患者のトリアージを実施した他、気仙沼市立病院の支援を行った。更に3月13日には、名古屋医療センターの班が仙台市民病院にて支援活動を実施した。

【DMAT派遣病院】

主な活動地域	派遣病院
霞目自衛隊駐屯地	仙台医療センター 金沢医療センター① 九州医療センター① 熊本医療センター
仙台医療センター	金沢医療センター②
仙台市立病院	名古屋医療センター②
宮城県庁	災害医療センター① 災害医療センター-調査ヘリ②
気仙沼市	東京医療センター (東京都DMATに派遣)

なお、被災地への交通手段の確保は各DMAT隊に委ねられており、例えば金沢医療センターの班は被災2時間半後の、3月11日17時10分に車で金沢を出発し、翌12日早朝より仙台医療センターにて活動を開始。九州医療センターと熊本医療センターの両班は3月12日早朝に福岡空港を自衛隊の航空機により出発し、茨城県百里基地経由で昼頃には仙台入りした。

日本DMAT史上最大規模の医療航空搬送ミッションを遂行

仙台医療センター 救命救急センター長 山田康雄

震災直後、宮城県庁災害対策本部では仙台市の陸上自衛隊・霞目駐屯地にSCUの設置を決定、当院に霞目SCU統括チームの派遣要請がありました。当院DMATは12日夜明け、陸上自衛隊東北方面衛生隊と共にSCUを開設しました。霞目SCUには、DMAT活動拠点本部(当院に設置)からのチームに加え、九州からも空路24チーム(120名)が直接派遣されて来ました。しかし津波災害の特殊性ゆえ、重症外傷やクラッシュ症候群などの広域搬送対象者は少なく、6名の域外搬送の後、3月13日に九州チームは撤収となりました。ところがその後、沿岸地域からのヘリ救出搬入が急増し、特に3月14日には、水没した石巻市立病院からの患者一斉救出を含め1日で172名を搬入、沿岸の津波被災地に比べまだダメージが少なかった仙台市内の病院を中心に分散搬送を行いました。3月16日までの5日間で211名の傷病者に対応するという日本DMAT史上最大規模の医療航空搬送ミッションを遂行し、霞目SCUから撤収しました。

(広報誌「NEWS仙台医療センター」4・5月合併号の記事を掲載)

【宮城県での DMAT 活動期間と主な活動場所】

DMAT	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日
仙台医療センター	出発	霞目駐屯地				撤収
東京医療センター(東京DMAT)		出発	気仙沼市営球場	撤収		
災害医療センター調査ヘリ2	東北地方太平洋沖地震発生			3名合流		
災害医療センター第1班		出発	宮城県庁	宮城県庁・霞目駐屯地		撤収
金沢医療センター第1班		茨城県で活動	仙台医療センター			
金沢医療センター第2班		出発	仙台医療センター	撤収		
名古屋医療センター第2班			茨城県で活動	仙台医療センター・ 仙台市立病院	仙台市立病院	撤収
九州医療センター第1班	出発	霞目駐屯地	撤収			
熊本医療センター	出発	霞目駐屯地	撤収			

- ①仙台医療センター（霞目駐屯地）
 ②金沢医療センター（霞目駐屯地）
 ③金沢医療センター（仙台医療センター内）
 ④⑤九州医療センター（霞目駐屯地）

- ⑥仙台医療センター（霞目駐屯地）
 ⑦⑧東京医療センター（気仙沼市）
 ⑨宮城県 DMAT 本部



1-1 DMATの活動

(2) 岩手県におけるDMATの活動

岩手県におけるDMAT参集拠点は、盛岡市内の岩手医科大学であり、活動拠点はSCUが設置されたいわて花巻空港となった。

北海道医療センター、関門医療センター、大阪医療センター、京都医療センターの4班は3月12日から13日にかけて、主にいわて花巻空港の格納庫に設置されたSCUで活動を実施した。いわて花巻空港からは、新千歳空港へ4名、秋田空港へ6名、羽田空港へ6名が搬送された。なお、京都医療センターDMATは撤収の際、持参した機材を物資が不足していた仙台医療センターに届け帰路についた。

姫路医療センターは、3月12日にいわて花巻空港SCU活動を行うと共に、情報が不足していた県立大船渡病院の状況を把握するためにヘリコプターで移動し建物の被害、ライフライン、マンパワーの状況を調査した。翌13日には孤立した釜石市箱崎白浜地区の住民の避難を支援した。

信州上田医療センターは、3月12日に県立宮古病院の受け入れ可能状況、ライフラインの状況等を調査し、今後の患者搬送をDMAT調整本部と検討をした。その後、搬送トリアージ等を行い、13日に引き継ぎを行い、宮古病院から撤収した。沼田病院は、県立大船渡病院で救急搬送の対応を行っ

た。高知病院は、3月18日から陸前高田市内の避難所、県立病院の仮診療所、老健施設等で活動した。

【DMAT派遣病院】

主な活動地域	派遣病院
いわて花巻空港	北海道医療センター、京都医療センター、大阪医療センター、姫路医療センター、関門医療センター
県立宮古病院	信州上田医療センター
岩手医大	災害医療センター調査ヘリ①
大船渡病院	沼田病院①
陸前高田市	高知病院

また、災害医療センターの調査ヘリは3月12日朝に岩手医科大学に到着し、被災状況の調査を実施した。

現地への交通手段としては、大阪医療センター、京都医療センター、姫路医療センターの各班は伊丹空港より自衛隊機等にて3月12日の早朝にいわて花巻空港入りした。関門医療センターは陸路で伊丹空港まで移動し、同様に自衛隊機に搭乗した。信州上田医療センターは車で出発後、3回参集地変更の連絡を受けながら岩手県立消防学校に到着。そこから自衛隊機で宮古病院に移動した。

- ①大阪医療センター（いわて花巻空港）
- ②関門医療センター（いわて花巻空港）
- ③姫路医療センター（いわて花巻空港 SCU 本部）
- ④北海道医療センター（自衛隊輸送機内）
- ⑤関門医療センター（自衛隊輸送機により移動）

- ⑥県立大船渡病院
- ⑦、⑧姫路医療センター（釜石市白浜地区）
- ⑨大阪医療センター（いわて花巻空港）
- ⑩、⑪信州上田医療センター（県立宮古病院）
- ⑫高知病院（陸前高田市）
- ⑬京都医療センター（いわて花巻空港）



沼田病院は仙台医療センターを目指し病院を車で出発したが、途中で岩手県に向かうよう指示を受けた。高知病

院は陸路により約1,440kmの道のりを25時間かけて被災地入りした。

【岩手県における DMAT 活動期間と主な活動場所】

DMAT	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日	3月20日	3月21日
北海道医療センター		出発 いわて花巻空港・千歳空港	搬収								
沼田病院第1班				出発 岩手県大船渡病院	搬収						
災害医療センター調査ヘリ		福島空港 宮城県庁で活動	岩手県庁								搬収
徳州上田医療センター (旧長野病院)	出発	岩手県消防学校・ 岩手県立宮古病院	岩手県立宮古 病院	搬収		1名放射線スクリーニング班へ					
京都医療センター		出発 いわて花巻空港	搬収								
大阪医療センター		出発 いわて花巻空港									
姫路医療センター		出発 いわて花巻空港・岩 手県立大船渡病院	いわて花巻空港・ 大槌町	いわて花巻空港	搬収						
関門医療センター		出発 いわて花巻空港	搬収								
高知病院								出発 陸前高田市仮設診療所			搬収

【関門医療センター DMAT の移動経路】



【高知病院 DMAT の移動経路】



1-1 DMATの活動

(3) 福島県及び茨城県等におけるDMATの活動

(1) 福島県への派遣

福島県内におけるDMAT 参集拠点は、福島市内の福島県立医科大学であり、香川小児病院と善通寺病院の2班が3月12日に福島空港のSCUで活動した。福島空港からは患者3名が羽田空港に搬送された。

災害医療センター第3班及び静岡医療センターは、原子力発電所の事故のため、30km圏内の医療機関に残る患者を圏外に搬送する際のチェックポイントで被ばくスクリーニング等を行った。その後、静岡医療センターは福島県立医科大学病院にてSCUを立ち上げトリアージ及び搬送を行った。

呉医療センターは10km圏内から二本松男女共生センターに避難してきた住民に対しスクリーニングを行った後、

【福島県での DMAT 活動期間と主な活動場所】

DMAT	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日	3月20日	3月21日
災害医療センター調査ヘリ	出発 福島空港	宮城県庁・岩手県庁へ									
災害医療センター第2班	出発 福島県立医科大学病院・磐城共立病院	いわき病院 搬取									
災害医療センター第3班								出発 福島県庁	光洋高校	福島県立医科大学病院・サテライトかしま	サテライトかしま 搬取
静岡医療センター第2班								出発 飯舘村公民館	川俣高校	福島県立医科大学病院・サテライトかしま	サテライトかしま 搬取
呉医療センター第1班	出発 自衛隊輸送艦にて移動	福島県立医科大学病院 二本松男女共生センター	搬取								
善通寺病院	出発 福島空港SCU	搬取									
香川小児病院	出発 福島空港SCU	搬取									

DMAT	...	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日	5月11日	5月12日	5月13日	...	5月17日	5月18日	5月19日
災害医療センター第4班	出発	磐城共立病院							搬取			
災害医療センター第5班									出発 福島県内			搬取

①呉医療センター（福島県二本松市）

②呉医療センター（自衛隊輸送艦での移動）

③④善通寺病院・香川小児病院（福島空港）

⑤災害医療センター（茨城県）

⑥高崎総合医療センター（茨城県）

⑦⑧名古屋医療センター（茨城県）



(2) 茨城県その他地域への派遣

茨城県内におけるDMAT 参集拠点は、筑波メディカルセンターとされた。被災翌日の早朝には、災害医療センター、高崎総合医療センター及び静岡医療センターの3班が、被災で機能低下した水戸共同病院の患者多数を水戸医療センター等に搬送した。また、名古屋医療センターの班は、被災した北茨城市立総合病院の支援及び入院患者を高萩共同病院、霞ヶ浦医療センターへ搬送した。

東京医療センターの班は12、13日に羽田空港でSCU支援を行った。羽田空港では福島空港から3名、いわて花巻空港から6名の搬送があり、うち1名を東京医療センターが受け入れた。

呉医療センターは大阪空港に、九州医療センター第2班及び長崎医療センターは航空自衛隊春日基地（福岡県春日市）へSCU支援を行うためDMATを派遣したが、結果的には関東以西への広域医療搬送は行われなかった。なお、春日基地SCUの設営等にあたっては、熊本

医療センターの医師が統括DMATとしての任務を担った。

高崎総合医療センター及び沼田病院のDMATは、群馬県前橋市にある産業技術センター内において福島県大町病院から搬送された患者を県内の医療機関に分散させるためのトリアージを行った。

【DMAT 派遣病院】

主な活動地域	派遣病院
筑波メディカルセンター	高崎総合医療センター①、静岡医療センター①、名古屋医療センター①
産業技術センター（群馬県前橋市）	高崎総合医療センター②、沼田病院②（群馬県 DMAT に派遣）
羽田空港	東京医療センター
航空自衛隊春日基地（福岡県春日市）	九州医療センター②、長崎医療センター
大阪空港	呉医療センター②

【茨城県等での DMAT 活動期間と主な活動場】

DMAT	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	...	3月21日
高崎総合医療センター第1班	出発 筑波メディカルセンター・水戸協同病院 撤収					
東京医療センター		出発 羽田空港SCU 撤収				
災害医療センター第1班	出発 筑波メディカルセンター・水戸協同病院 撤収	宮城県へ				
静岡医療センター第1班	出発 筑波メディカルセンター・水戸協同病院 撤収					
名古屋医療センター第1班	出発 北茨城市立総合病院 撤収					
名古屋医療センター第2班		出発 筑波メディカルセンター・茨城県那珂市役所	仙台市立病院へ			
呉医療センター第2班		出発 大阪空港 撤収				
九州医療センター第2班			出発 春日基地 撤収			
長崎医療センター		出発 春日基地 撤収				
高崎総合医療センター第2班（群馬県DMAT）					出発 群馬県産業技術センター 撤収	
沼田病院第2班（群馬県DMAT）					出発 群馬県産業技術センター 撤収	

- ⑨ 静岡医療センター
（筑波メディカルセンター）
⑩⑪ 高崎総合医療センター・沼田病院
（群馬県産業技術センター）
⑫⑬ 東京医療センター（羽田空港）

